

南阿蘇村へ 2016.7.25

益城町から西原村を通過、南阿蘇へ 「全面通行止」 のところが多い



乙力瀬地区にある火の鳥温泉やペンション・メルヘン村周辺も山塊が崩れた (2016.7.25)



道の駅「あそ望の郷さく」阿蘇の大パノラマが見られず残念



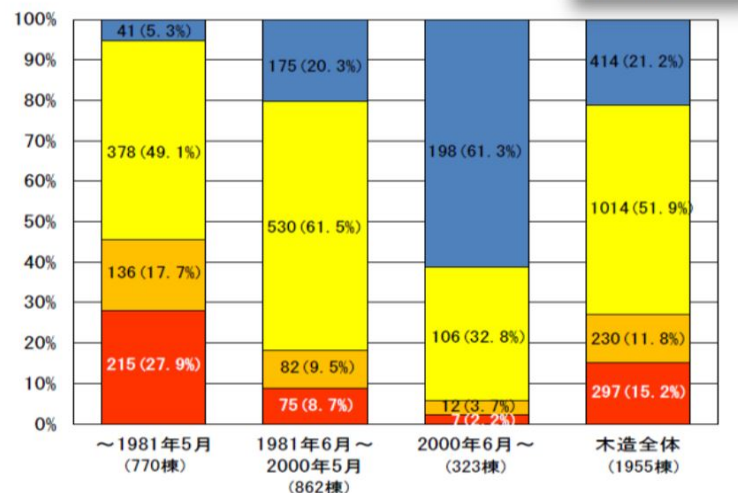
日本三大楼門 阿蘇神社も崩壊した (2016.10.28)



甲佐町白旗仮設住宅「第1回炊き出し&なんでも相談会」(主催:「熊本地震」被災者支援共同センター) 集会所で町議さんより甲佐町の被害状況などを聞きました。夕方から熊本城のすぐ近くの市民会館でブロック会議を行ないました。熊本地震支援共同センターの事務局長さんや議員さんも参加され、総勢34名の会合になりました。(2016.7.24)

益城町

建築学会悉皆調査結果による木造の建築時期別の被害状況



地震の被害判定 ワンポイント

<応急危険度判定>
人命にかかわる二次的災害防止のために3段階(赤・黄・緑)の判定を行政が行なう。

<罹災証明>
生活ができるかどうかの判定で生活支援を目的とされる。
判定レベルは「一部損壊・半壊・大規模半壊・全壊」支援は半壊以上で、一部損壊との差が大きい。

<地震保険> 建物の損壊を判定する
判定部位は「主要構造部分」
判定レベルは2017年から4段階「一部損(5%)、小半損(30%)大半損(60%)、全損(100%)」罹災証明と同様に一部損と半損の落差が大きい。



熊本地震報告-No.2
被災地の支援と
教訓を防災・減災に役立てよう



熊本地震から学ぶ マンションの防災

4月14日・16日益城町で震度7を観測し、連続して震度7が同じ地点で観測されたのは史上初めてのことでした。そして、その後も活発な余震活動が続いています。4月16日1時25分にマグニチュード7.3の地震は、関東地方を含め一部は山形県まで非常に広範囲に有感し、韓国の釜山や濟州島でも有感したそうです。震源断層は、活断層として知られていた布田川断層に沿った右横ズレ型断層で、長さが約27km、幅が約12km(北西側へ約60度で傾斜)、東は阿蘇山の裾野にまで達するものでした。

私たちは5月に続いて、7月24日~26日に新建築家技術者団体の会員30名と地震の被害を視察するのと併せて、仮設住宅でお話を聞き、熊本市内で会合を開きました。10月27日~28日は熊本市内で行なわれた、被災マンションの復旧についての学習会に講師として参加しました。

熊本市内では850棟のマンションがあり、そのうちの80%が敷地・内外壁・エキスパンション・水槽・エレベーターなどで、なんらかの被害を受けています。多くは1981年以前に建てられた旧耐震基準の建物ですが、中には耐震補強をしても被害が出ている建物もありました。



熊本市東区 「Sマンション」 1991年築 SRC造11階 37戸



開口部を中心に大きな被害が出た。ドアをこじ開けた様子が見える。

◆住宅・マンションのこと、なんでもご相談下さい ◆被災地支援と防災を!

住まいとまちづくりコープ

〒174-0072 板橋区南常盤台1-38-11 福興電気1F

TEL 03-5986-1630 FAX 03-5986-1629

Mail sumaimachi@sumaimachi.net

千代崎一夫/山下千佳

<http://sumaimachi.net>



熊本市西区「Kマンション」 2001年築
SRC造 11階建て 55戸



住民の方は全員、避難されていましたが、荷物を取りに来られた方とお会いし、室内とベランダを見せていただきました。玄関ドアが開かなくなり、ベランダの隔て板を壊して隣のお宅に行こうとしても、隔て板が壊れなかったそうです。

熊本市中央区「Pマンション」 2006年築 RC造 6階建て



自宅にすることができても、マンションは住戸が積み重なっているためにエレベーターが上下移動の手段です。給水は停電や水道が断水すれば使えなくなります。エレベーターが使えなければ水を下から運ぶのも大変です。また排水管が破損していれば、どこで漏れているかを確認しないうちに使い始めると漏水が起こります。つぶれていれば溢水になります。ドアや窓のまわりにひびが入っていれば、このままで大丈夫かという不安も広がります。

マンションでは、区分所有者の合意形成のことが重要ですので、情報を集めたり、専門家に相談したりしながら「マンションデモクラシー」を大切にしながら進めることが、被災した大変さを乗り越えられることと思います。専門家も、被災地に足を運び、またこれまでの事例から多くのことを学びながら、より良い助言と支援ができるようにすることが必要です。

政府の地震調査委員会は6月10日に今後予想される地震の揺れの強さや確率をまとめた「2016年度版-全国地震動予測地図」を発表しました。今後30年以内に震度6弱以上の揺れが起こる確率が、南海トラフ沿いで上昇したことが改めてしめされました。20年間の地震を見ても、日本はどこでも地震が発生する国です。「地震・津波に放射能・噴火・竜巻・火事・水害」という被害から考えると災害列島といえます。過去の災害でどのような被害が出たのかもしっかりと教訓化し、防災・減災を具体的に実行していくこと、尊い命を守る「逃げ出さなくても良い住まいとまちづくり」です。被災地支援と併せて行ないましょう。

生活再建支援制度など阪神・淡路大震災から運動を積み重ねてきた救済制度もあります。しかし、被災地・被災された方の生活再建には、まだまだ不十分です。住まいでも十数年という歴史があります。まちであれば数百年かけて形成されています。すぐに被災後をどうするかということ判断しなければならないことに無理があります。被災の気持ちも癒えて、他の条件もゆっくり考える時間を社会が保証することです。その土地と風土にあった、しかも地域で助け合う気持ちとお金と一緒に循環していくことで、生活再建のための考える時間が充実してくるのではないのでしょうか。

熊本市中央区「Woマンション」 1990年築 SRC造 11階建て 2棟 110戸



一部損壊と判定ができたが、2次判定で半壊となり、地震保険と合わせて補修費用は全額賄える。「このマンションは大規模改修の準備をしていた時に地震にあい、補修工事をすぐに着手できました。しかし、それだけではなく、理事長を中心に理事会が良くまとまり、マンションの方々も協力的です。」と現場代理人の方から工事手順とこれまでの経過を丁寧に説明していただいた。



サッシの交換

ドアの交換・壁の補修

ドア交換、ドア周りの補修をする際に室内が見えない様に木製の仮の扉を設置。鍵も絞められる。居住者への配慮と工事する人のしやすさがある工夫だった。

熊本市西区「Kハイツ」 1973年築 RC造 7階建て 38戸

倒壊しないように玄関・1階駐車場が仮に補強されていた (2016.7.25)

